

# 今、何の病気が流行しているか！

感染症発生動向調査事業から】



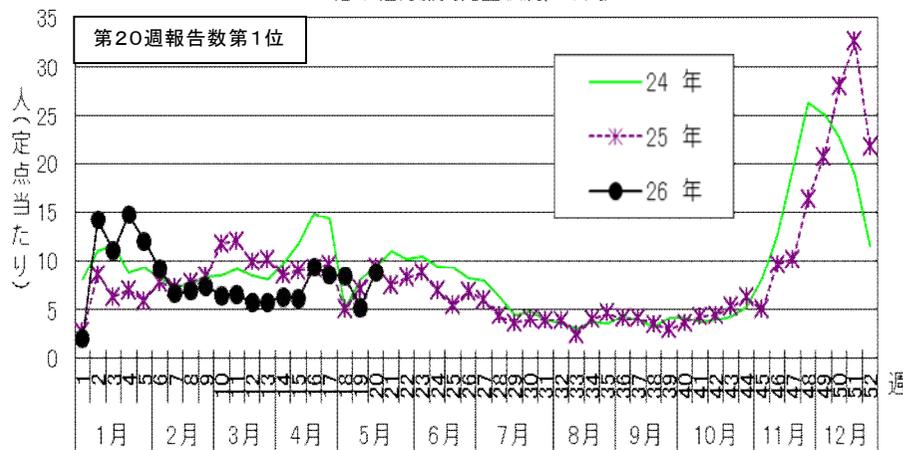
KAWASAKI CITY

平成26年5月12日（月）～平成26年5月18日（日）〔平成26年第20週〕の感染症発生状況

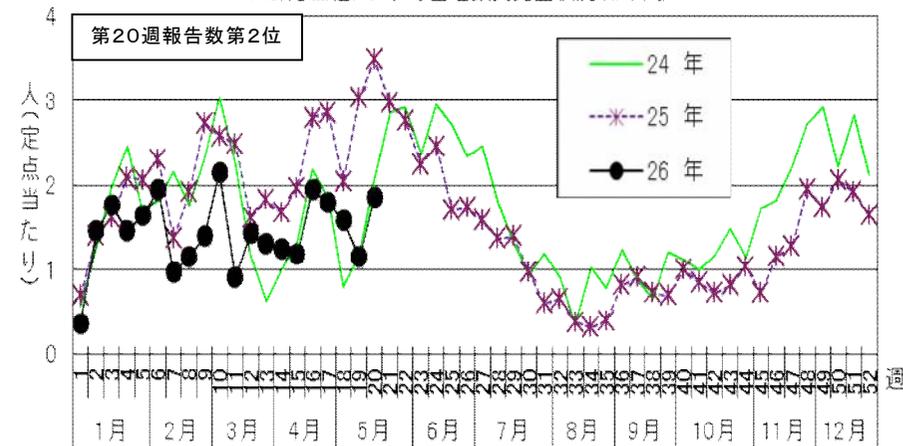
第20週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)伝染性紅斑・突発性発疹でした。感染性胃腸炎は定点当たり8.79人と前週（5.21）より患者報告数は増加しましたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり1.85人と前週（1.15）より患者報告数は増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。伝染性紅斑は定点当たり1.03人と前週（0.27）より患者報告数は増加し、例年より高いレベルで推移しています。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



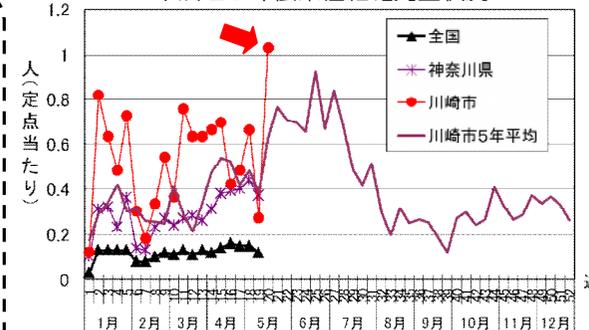
## 知っておきたい感染症～伝染性紅斑(いんご病)～

今年は現在のところ、例年に比べて、大きな流行を示す疾患はありませんが、伝染性紅斑の定点当たり患者報告数が1.03人と、過去5年平均(0.63人)を上回っています。特に宮前区で報告が多く、定点当たり2.00人となっています。

### 伝染性紅斑ってどんな病気？

- 飛沫(咳やくしゃみなど)感染・接触感染
- 10～20日の潜伏期間の後、両頬にリンゴのような紅い発疹が現れるため『りんご病』とも呼ばれる。手・足などに網目状の発疹がみられ、成人では関節炎症状がでることもある。
- 発疹が出る7～10日くらい前のウイルス排泄量が最も多く、発疹出現時には、感染力は消失している。
- 季節的には、春から患者数が増加し、6・7月にピークを迎える。
- 5歳前後の子どもに最も多い。
- 妊婦が感染した場合、胎児に異常(胎児水腫)がみられることがあるため、定期的な検診を受けることが重要である。

平成26年伝染性紅斑発生状況



特徴的な発疹出現後であれば、周りに感染させる可能性はないため、通園・通学は可能です。日頃から、手洗いの徹底や人混みを避けるなどの一般的な対策が重要です。

